

「熊撃退スプレー」といえば「カウンターアソルト」
 ■各種 熊よけ鈴あります! ■官公庁・教育機関向けの割引制度有り!

30th Anniversary Since 1989
 おかげさまで30周年

■熊よけリンリン ¥3,960(税別)
 澄んだ音色が大好評。当社オリジナルの熊よけ鈴。

■熊よけの定番!! 元祖 熊撃退スプレー
 日本で30年以上の実績。使用回数に制限から4年以上の耐用性を実現しています。

■シカコネジャー ¥3,200(税別)
 車輪などに取付け、音を出しシカなどの動物との衝突事故を未然に防ぐための装置です。

■左:カウンターアソルト (CA230) ¥8,980(税別)
 ■右:カウンターアソルト・ストロング(CA290) ¥11,500(税別)

●詳しくはカタログ・資料を
 ご請求下さい。
outback@cup.com

カウンターアソルト 日本輸入総代理店
有限会社アウトバック
 020-0401 岩手県盛岡市手代森16-27-1
 TEL:019-696-4647 FAX: 019-696-4678
 クマ情報満載HP <http://outback.cup.com/>

3G通信機能付き
センサーカメラの撮影画像をクラウド上で一元管理し、迅速な対応とコストの削減を可能にする、画期的システム。

ファームキャプチャーの特徴

- ①野生動物管理の迅速な対応
 撮影した画像を即時に確認可能(PC、メールなど)
- ②コストの大幅削減
 SDカードなどの確認作業が大幅に削減
- ③データ保存機能とマップ化
 画像はクラウド上に保存され、検索、地図上で確認が可能です
- ④レポート機能
 保存データの印刷ができ、資料作成が簡単

NEW  **野生動物管理クラウドシステム**
ファームキャプチャー

お問い合わせ **ファームエイジ株式会社** 〒061-0212 北海道石狩郡当別町字金沢166
 TEL:(0133)22-3060 / FAX:(0133)22-3013

動物園を魅力的にする方法 - 展示デザインにおける12のルール
 富澤奏子 訳 定価 5,500円 (本体 5,000円+税)
 動物園のデザインのあり方を解説。関係者のみならず、動物園ファンにも楽しめる1冊。2018年3月発行。

増補版 野生動物管理 - 理論と技術 -
 羽山伸 ・ 三浦慎悟 ・ 梶 光 ・ 鈴木正嗣 編
 定価 7,920円 (本体 7,200円+税)
 日本の状況に即した日本オリジナルの野生動物管理の書籍。野生動物管理の道しるべとなる1冊。2016年6月発行。

コアカリ 野生動物学
 日本野生動物医学会 編 定価 3,850円 (本体 3,500円+税)
 野生動物学を学ぶ際、まず手に取るべき書。2015年10月発行。

●ご注文は最寄の書店、取り扱い店または直接弊社へ
Sum-eido 文永堂出版 検索 click!
 TEL03-3814-3321 FAX03-3814-9407

ヒトとヒグマの共存を目指した史上最強ゴミステーション

とれんべア クマにゴミを荒らされないために作られたゴミステーション

■扉がロック式 金属レバーを押し上げる。

ヒグマに強い3つの理由

- 鋼材を使用し、中身が見えず匂いが漏れにくい箱型のため、クマを誘引しにくく叩いても壊れない頑丈な構造となっています。
- 扉がロック式のため、クマの爪が引っかからず、万が一転倒しても扉が開かないようになっています。
- コンクリート平板を基礎にしているため、クマが押し倒れないようになっています。(コンクリート約900kg)

■共同販売 公益財団法人 知床財団 (試験協力 旭川市旭山動物園) ■製造会社 シティ環境株式会社 ■販売会社 シティ環境株式会社

City シティ環境株式会社 **ゴミの専門家** ☎0152-61-2663
 札幌市中央区南一条西5丁目1番1号 札幌市宇月見177-32 FAX: 0152-61-2664

■ヒグマの会 40周年記念事業シンボルマーク



川村 芽惟 (シンボルマークのデザイナー)
 1995年生まれ。愛知県出身。東京藝術大学 先端芸術表現科を卒業、知床に移住。2018年、第一種狩猟免許を取得。自然と共に生きていく術を勉強中。

ヒグマは、アイヌの人々からキムカムイ(山の神)として崇められてきました。ヒグマの肩の盛り上がりから腰にかけてのシルエットは、まさに山々の稜線のようなです。雄大な自然を生き抜くヒグマを、北海道の象徴として表現しました。制作の機会をいただき、嬉しく思います。

■協賛企業

有限会社アウトバック / 株式会社建設環境研究所札幌支店 / サージミヤワキ株式会社札幌営業所 / シティ環境株式会社 / 登別温泉ケーブル株式会社のぼりべつクマ牧場 / ファームエイジ株式会社 / 文永堂出版株式会社 / 北海道獣医師会 / 北海道和光純薬株式会社 / 丸善出版株式会社 / 株式会社ムトウ

■ポスター、パンフレット制作 編集 / NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」 デザイン / woodyhouse designs 檜山 知弘

■お問合せ

ヒグマの会 事務局 (事務局長 佐藤喜和) ☎ 069-8501 北海道江別市文京台緑町582 酪農学園大学 農食環境学群環境共生学類 野生動物生態学研究室 内
 ✉ higuma.no.kai.1979@gmail.com 🌐 <http://higuma1979.sakura.ne.jp/>

※本事業は、ほくく一基金、前田一步園財団自然環境保全活動助成金、ならびに北海道新聞野生生物基金の支援を受けて実施されています。

ヒグマの会40周年記念



クマづくしの1日
ヒグマックス

1979年に発足したヒグマの会は今年(2019年)、40周年を迎えました。
 12月8日に開催する“HIGMAX2019クマづくしの1日”を中心に、人とヒグマの関わりを考えていただく記念行事を展開しています。

テーマは「北海道のシンボル・ヒグマ～共存への道のり」です。道内ではヒグマによる痛ましい人身事故や出沒騒動が続いています。ヒグマと人間の距離感が変わってきている中で、共存を目指し、ヒグマの生態や安全対策について広く知ってもらうことを目指します。その大切さ、難しさ。ヒグマはやはり北海道のシンボルにふさわしい動物です。例年のヒグマフォーラムとは一味違い、気軽に参加してヒグマを体感してください。

本日より、「ヒグマとのつきあい」を考える企画を行います。みなさまのご参加をお待ちしています。

12.8 2019
sun
 10:00~16:30
札幌エルプラザ 3F ホール

主催: **ヒグマの会** <http://higuma1979.sakura.ne.jp/>
 共催: 日本クマネットワーク、札幌市
 後援: 環境省、北海道、札幌市教育委員会、北海道新聞、朝日新聞社北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK札幌放送局、HBC北海道放送、STV札幌テレビ放送、HTB北海道テレビ、UHB北海道文化放送、TVhテレビ北海道
 協力: NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」、北海道大学科学技術コミュニケーション教育研究部門(CoSTEP)
 フィルム制作協力: 北海道魚類映画社

2019

TIMETABLE

総司会/林家とんでん平さん(落語家)・安田知沙さん(酪農学園大学環境共生学類4年)

AM(10:00-12:00)

開会のごあいさつ、&シンボルマーク紹介

ヒグマ・フィルムフェス&クマの語り部ミニレクチャー 第1部

FILM

- ①自動カメラがとらえた札幌ヒグマの実像「となりのヒグマ」佐藤喜和(酪農学園大学環境共生学類)
- ②世界自然遺産知床ヒグマと共に生きる人たちとの出会い 吉田美和さん(ワットムーン/NHK札幌)・矢内智大さん(NHK札幌)
- ③知床の野生を描く「ザ・リミット」 今津秀邦さん(ワンドリームピクチャーズ)

LECTURE

- ①ヒグマってどんな動物? 佐藤喜和(酪農学園大学環境共生学類)
- ②札幌市のヒグマ事情 早稲田宏一(NPO法人EnVision環境保全事務所)
- ③ヒグマとの事故を避けるには 釣賀一三(道総研環境科学研究センター)

ホラネロ Introduction

AM/PM(10:00-16:30)

会場ロビーではヒグマ対策の企業製品や等身大のクマパネルと2ショット、足跡マット、クマトランクキット、ヒグマの会お宝グッズ紹介などの展示を行います。道内の企業・団体が使うヒグマ・キャラクターも一挙紹介。来場者全員にヒグマシンボルマークの記念品を差し上げます。

PROGRAM



クマ笛コンサート ホラネロ

オホーツク在住の夫婦デュオ、ホラネロによる、ギターと笛の演奏会。ヒグマの骨で作った笛が、森の風を思わせる優しくて張りのある音を奏でます。

フルート奏者のたにふじ・まきこさんは、東京学芸大学を経て東京芸術大学大学院を修了。出身地である北海道道東のオホーツク地域の魅力を音楽で表現する活動をはじめ7年になる。「音を通して次世代に地域の魅力を伝え、人々の心の糧になりたい」というコンセプトを念頭において活動してきた。これまでに4枚のアルバムCDをリリース。「ヒグマのうた」は将来、子供たちが人とヒグマの共存について考えるとき、頭の中にイメージされるヒグマは単なる恐怖の対象ではなく、威厳に満ちた姿をしていて、自然界の多様性に対しても、寛容な視点を持つことが出来るようになってほしいという想いで作った。



HIGMAX 落語 林家とんでん平さん

自然をテーマにした創作落語も多数。今回はヒグマをテーマにした新作落語を披露していただきます!

1979年小樽から東京までリヤカーを引き1,000kmの旅で上京、初代林家三平最後の弟子になる。その後林家こん平門下に。1996年真打昇進。リヤカーをひいて全国で手話落語を行い、さらにデンマーク、ロシア、中国、タイで国際手話落語公演を行なう。2000年札幌に移住。2003年から2015年まで札幌市議会議員を3期12年務める。2016年から東日本大震災及び熊本大震災の被災された方に笑ってもらう事と被災されていない方々に現状を伝えるために全国6000キロ落語行脚を行う。

PM(13:00-16:30)

ヒグマ・フィルムフェス&クマの語り部ミニレクチャー 第2部

FILM

- ④ダーウィンが来た! 生きもの新伝説「世界遺産知床 オスグマ 王座を目指せ!」より 天野元裕さん(NHKエンタープライズ)
- ⑤HTBイチオシ! MIKIOジャーナル傑作選 阿部幹雄さん(写真家・ジャーナリスト)

LECTURE

- ④アイヌの知恵に学ぶヒグマ管理 間野勉(道総研環境科学研究センター)
- ⑤世界のクマ事情 坪田敏男(北海道大学大学院獣医学研究院)

HIGMAX落語 林家とんでん平さん

クマ笛コンサート ホラネロ

縦横無尽トーク 人とヒグマ、良き隣人になれる?

～動物園に学ぶ・アイヌに学ぶ 対談 小菅正夫さんx本田優子さん

クマキャラ紹介、北海道のシンボル動物道民投票結果発表、ヒグマお宝抽選会

縦横無尽トーク

人とヒグマ、良き隣人になれる?



ヒグマとはどんな生き物か。

人とヒグマはどう付き合ってきたのか。アイヌの伝統や文化ではどんな存在か。北海道のシンボル動物としてのヒグマの価値や意義は? 時間・空間・分野を飛び超え、幅広い視点から「クマとヒト」を縦横に語っていただきます。



小菅 正夫さん
札幌市円山動物園参与、
前旭川市旭山動物園長

1948年札幌市生まれ。北海道大学獣医学部獣医学科卒業。旭川市旭山動物園に獣医師として勤務。1995年4月 旭川市旭山動物園園長、2009年4月名誉園長。2015年10月から札幌市環境局参与(円山動物園担当)



本田 優子さん
札幌大学
地域共創学群教授

1957年金沢市生まれ。北海道大学日本史学専攻課程を卒業後、平取町二風谷に移り住む。11年間、萱野茂氏の助手としてアイヌ語辞典の編纂に携わるとともに、二風谷アイヌ語教室子どもの部講師を務める。2005年、札幌大学助教授に着任。2011～2017年、副学長。(一社)札幌大学ウレシパクラブ代表理事。

FILM ヒグマ・フィルムフェス

見たことがないヒグマの自然な姿や、人とヒグマの関わりを伝える貴重な短編映像5編を2部に分けて上映。さらに制作者が「ヒグマの現場」を語ります。

第1部

① 自動カメラがとらえた札幌ヒグマの実像「となりのヒグマ」

佐藤 喜和(酪農学園大学環境共生学類)

190万都市札幌は、ヒグマと人の共存都市でもあった。市街地となりあわせの裏山で、人知れずヒグマたちが暮らしている。生息状況を知るために札幌市内に設置した自動撮影装置がとらえた「となりのヒグマたち」の姿と、無用な軋轢をさけるために続く地域住民との協働とは?

② 「世界自然遺産知床ヒグマと共に生きる人たちとの出会い」

吉田 美和さん(ワットムーン/NHK札幌)
矢内 智大さん(NHK札幌)

今まで生きてきてヒグマとの出会いは動物園やクマ牧場。野生のヒグマを目の当たりのすることは一生ないと思っていました。しかし昨年7月、撮影のため訪れた世界自然遺産・知床のルジャと呼ばれる地域で初めて見た光景に驚きました。お腹をすかして人間に寄りつく野生のヒグマ、そしてそのヒグマに動じず目を見て叱りつける1人の漁師。漁師の言葉で去って行くヒグマ。いったい、ここは、どういう世界なんだ…。想像を超える野生のヒグマと人間の共存関係にただただ驚くばかりでした。

③ 知床の野生を描く「ザ・リミット」

今津 秀邦さん(ワンドリームピクチャーズ)

ヒグマとヒトとの距離は既に限界に達していると言う。ヒトとは、地域住民と観光客である。ヒグマを恐れない観光客とヒトの生活圏に慣れてしまったヒグマの現状をそれぞれの立場から見直したい。平行線を辿る現状をオブラートに包まないリアルな映像と切り口で、私たちに出来ることを最大限に探っていきたい。

第2部

④ ダーウィンが来た! 生きもの新伝説「世界遺産知床 オスグマ 王座を目指せ!」より 天野 元裕さん(NHKエンタープライズ)

世界遺産、北海道の知床半島。世界有数の生息密度を誇るヒグマの楽園だ。しかし、これまで撮影されたヒグマのほとんどがメスや子ども。オスは警戒心が強く、深い森の中で暮らしているため、姿を見ることすら難しい。今回、研究者の協力を得て、足かけ6年に渡ってオスを追跡。2頭の巨大なオスが王座をめぐる命がけで戦う決定的瞬間に遭遇。誰も知らないオスのヒグマの生きざまに迫る!

⑤ 「HTBイチオシ! MIKIOジャーナル傑作選」

阿部 幹雄さん(写真家・ビデオジャーナリスト)

知床ルジャを訪れて40年。特集ニュース「MIKIOジャーナル」と番組を制作してきた。ヒグマを追い払う岬の漁師、追い払わないルジャの漁師。ヒグマと共存する異なる方法だ。一方、見たい、撮りたいと距離を縮める観光客。人間との距離を保てない、人間の食べ物や口にしたヒグマは駆除されていく。いったい誰がヒグマを殺したのか。ヒグマは人間に似ている。最近、「ヒグマに似てきた」と私は言われる。ヒグマが生きられる自然こそ、人間も生きられる。

LECTURE クマの語り部ミニレクチャー

ヒグマの会役員でもある専門家5人衆が、最新のヒグマ情報やクマへの思いを語ります。

第1部



① ヒグマってどんな動物? 佐藤 喜和 酪農学園大学環境共生学類 教授

市街地への出没や被害など人間との間にトラブルがあったときに、新聞やテレビで盛んに報道されるヒグマ。それ以外の時間は、どんな風に過ごしているのだろうか? 北海道の森の中で普段は静かに暮らすヒグマの1年の暮らしを、子育て、親離れ、繁殖、社会、食べものなどの視点から紹介します。また市街地に出没してしまう原因についても考えてみたいと思います。

1971年東京都生まれ。北の自然に惹かれて北海道大学入学。同大ヒグマ研究グループに参加してヒグマにはまる。農学部応用動物学教室を経て、東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了、博士(農学)。白糠丘陵(浦幌町ほか)や札幌市でヒグマの生態と管理に関する研究を続けている。

② 札幌のヒグマ事情 早稲田 宏一 NPO法人EnVision環境保全事務所 研究員



昨今市街地へのヒグマの出没が話題を集めています。どうしてヒグマが市街地に出没するようになってきたのでしょうか? 現地の調査から分かってきていることを中心に、歴史的な流れにも注目しながら、この問題の背景を探ります。

1974年生まれ。大学時代に苫小牧でヒグマの生態調査に関わる。ヒグマやエゾシカを中心とした野生動物の調査研究や被害対策の業務に従事。狩猟者として活動するほか、野生動物の普及啓発活動にも取り組んでいる。

③ ヒグマとの事故を避けるには 釣賀 一三 道総研環境科学研究センター 道南地区野生生物室長



ヒグマというと恐ろしい動物のイメージを持つ人もいかもしれませんが、ヒグマがむやみに人を襲うことはありません。ヒグマによる事故の多くは、人がヒグマに関する知識を身につけ正しく理解することによって避けることができます。これまで人身事故が発生した際には、その発生原因を明らかにするために詳細な調査が行われてきました。それらの結果から、ヒグマによる事故を防ぐためにできることについてお話ししたいと思います。

1964年京都市生まれ。1998年に北海道環境科学研究センター就職、道南地区野生生物室に着任。2008年より現職。渡島半島地域を拠点に人とヒグマのあつれき軽減に関する調査・研究に取り組んでいる。

第2部

④ アイヌの知恵に学ぶヒグマ管理 間野 勉 道総研環境科学研究センター 自然環境部長



北海道教育委員会によるアイヌ民俗文化財調査結果から読み取れる、アイヌの人たちのヒグマという動物の捉えかたと対応のしかたが、現在の科学的知見に照らして極めて合理的であること、北海道が進めているヒグマ管理計画の考えかたにも、実は取り入れられていることを紹介します。

1960年東京都生まれ。入学した北海道大学でヒグマ研究グループに入り、野外活動と地域社会とのつきあい方を学ぶ。農学部林学科卒業後応用動物学教室に移籍し、ヒグマ個体群研究で学位(農学博士)取得。91年から北海道環境科学研究センターにて研究に従事。IUCN/SSCクマ専門家グループ日本委員、日本哺乳類学会理事、ヒグマの会副会長、北海道ヒグマ保護管理検討委員などを兼任。

⑤ 世界のクマ事情 坪田 敏男 北海道大学大学院獣医学研究院 教授



世界には8種のクマが現存するが、そのうちの5種がアジア地域に生息しています。8種のクマのうち、アメリカクロクマとヒグマを除く6種が絶滅に瀕しています。生息地の破壊や密猟・過剰な捕殺、地球温暖化、化学物質汚染など人間活動による影響により生息数を減らしています。いくつかのクマをピックアップして、その現状と未来について語ります。

1961年大阪府生まれ。獣医師を目指して北海道大学入学。入学後、同級生(間野)に誘われて北大クマ研に入る。ヒグマもさることながらクマ研に魅了され、そのままクマの世界へ。83年獣医学部卒業、85年獣医学研究科修士課程修了、88年同博士課程修了。岐阜大学農学部獣医学科助手、助教授、教授を経て、2007年より現職。ヒグマの会会長、日本獣医学会野生動物分科会会長、北海道獣医師会野生動物部会長。近年は、ヒグマやツキノワグマの生理・生態学的研究に携わる傍ら、ネパールに赴きアジアゾウやツキノワグマ、ナマケグマの調査研究にも取り組んでいる。